

# 1 組織・連携委員会の取組

## (1) 活動計画

### ① 研究テーマ

『ともに学び・行動し・連携するPTA活動と  
活性化のための組織のあり方』

### ② 研究テーマ設定の理由

現代社会は、少子・高齢化の進行や人口構造の変化など社会構造の変化、また、家庭における教育力の低下や地域住民のつながりの希薄化による意識の変化など、学校を取り巻く環境は決してよいとは言えない状況である。

そのような状況の中でも、私たち保護者は、ふるさと北海道の未来を切り拓く子どもたちに「豊かな心」と「生きる力」を育む責任を負うと同時に、どんなに価値観が多様化しても、常に子どもと向き合っていかなければならない責任もあると考える。また、子育てを保護者が背負い込むのではなく、積極的に学校と地域が関わり、自ら学び、行動する中で、子どもを伸ばさせることも必要になっている。

そのときにPTAは、家庭・学校・地域をつなぐ要であり、それぞれの役割の役割と責任を明確にして、連携を図っていくという大切な役割があるのではないかと考える。

さらにPTA活動の活性化を図るためには、PTA活動の基本方針を大切にしながら、現状に柔軟に対応できる組織や連携のあり方についての検討が求められるとともに、会員相互の研修や協議などを通じて、それらのあり方を具体化することが喫緊の課題になっていることから上記のようなテーマとした。

### ③ 研究の視点

研究のテーマを解決していくためには、「報告を受ける委員会」から「発信する委員会」へ運営を深化させ、各PTA活動を支援することができるような活動を推進することを指標とし次の2点の視点に基づいて活動を進めていく。

#### ○「何を学び、どのように行動するのか」

(いつ、何を、どこで、共に学び、行動するのか)

そのためには、活動を具体的、継続的に推進するための組織を構築することが大切である。

#### ○「誰と、どのように連携し、行動するのか」

(誰と、どのように学び合い、行動するのか)

そのためには、連携する相手を明確にして、活動を構築していくことが大切である。



## (2) 今年度の取組

昨年度より本委員会では、本委員会の原点である「組織、他団体や地域との連携、研修活動などに関すること」に立ち返り、キーワードを「小中PTA及び他団体や地域との連携」として、先進的な実践事例を見つけ出し、平成29年度に向けて全道に発信していくこととした。

具体的には、平成26年度に教育・環境委員会が実施したアンケートの集約結果から「防災教育」の視点に絞り、幅広い団体が連携を図り、取り組まれている実践例を359事例の中からピックアップしていく。

さらにそのピックアップした実践事例の全道への発信方法について、より効果的な手立てに話し合っていく。

次年度以降、連携が図られている先進的な事例をどんな視点(テーマ)で見つけ出し、発信していくためのアンケートの内容を検討していく。

### (3) 成果と課題

#### ①【成果】

- 平成26年度に実施したアンケートの結果を基盤に、昨年度に引き続き、今年度も「学校・家庭・地域が連携して取り組んだ『防災教育』」に焦点化して研究を進めることができた。
- 焦点化してアンケートの分析を進めたことで「先進的な実践事例の絞り込み」や「全道への発信方法」について、有意義な協議が展開された。
- 「学校・家庭・地域が連携して取り組んだ『防災教育』」について、全道に紹介し、発信したい先進的な事例として、9事例に絞った。
- 全道への発信方法としてこの9事例を研究集録に掲載することと、道P連ホームページに掲載することを確認した。また29年度の小樽大会において、2事例については事例提言を行うことも確認した。
- 次年度以降の先進的な事例の収集を実施していくためのアンケートの内容を教育・環境委員会と合同で検討していくことができた。
- 組織・連携委員会での取組内容を、本年度の十勝・帯広大会で報告・交流することができた。

#### ②【課題】

- 「PTA役員のなり手をどう増やすか」「児童生徒数の減少やPTA会員数の減少」などについても、現状をしっかりと見極め、全道的な取組事例を探っていく必要がある。
- 幅広い団体が連携を図り、取り組まれている実践事例を「防災教育」以外のどんなテーマで見つけ出していくのか。そのテーマの焦点化が急がれる。
- 各地区P・単Pと道Pとの架け橋として、常置委員会がどう役割を果たしていくのか。

### (4) 次年度の方向性

- ①平成28年度での取組の成果と課題を受け、

#### ア 研究テーマ

「ともに学び、行動し、連携するPTA活動と活性化のための組織のあり方」

#### イ 研究の視点

\*何を学び、どのように行動するのか

(いつ、何を、どこで、共に学び、行動するのか)

\*誰と、どのように連携し、行動するのか

(誰と、どのように学び合い、行動するのか)

という2つの視点に基づいて、引き続き活動を進めていく。

#### ②具体的な取組は、

ア 平成29年度小樽大会での提言発表の分科会での進行の検討

イ 今年度検討したアンケートの集約及び先進的な実践事例を洗い出すためのテーマの焦点化

ウ その上でそのテーマをもとにした先進的事例の第1次絞り込み

以上のような流れで29年度の組織・連携委員会の研究協議を進めていくことが望ましい。

